

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員一 人あたりの 在籍学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数			
PT 昼	人	人	人	人	人	6 人	5 人	人	人	20 人
OT 昼						6 人	5 人			10 人
PT 夜						6 人	5 人			4.8 人
OT 夜						6 人	5 人			4.4 人
計	人	人	人	人	人	24 人	20 人	人	人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

①理学療法学科昼間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤、人間 と生活社会の理解	心理学	15	新井田 光希	兼任
		物理学	15	小岩 正敏	兼任
		社会福祉学	15	宮越 美佳	兼任
		生物学	15	守屋 開	兼任
		情報科学	15	山縣 豊樹	兼任
		英語	15	堀 琴美	兼任
		保健体育	15	廣田 邦生	兼任
専門基礎	人体の構造機能及び心身 の発達	解剖学	30	中嶋 俊雄	兼任
		機能解剖学Ⅰ	15	本間 伸晴	専任
		機能解剖学Ⅱ	30	西田 万里	専任
		生理学	30	中嶋 俊雄	兼任
		生理学演習	30	中嶋 俊雄	兼任
		人間発達学	15	榎 洋一	兼任
		運動学	15	鈴木 由紀子	専任
		運動学演習	30	伊藤 昇平	専任
		一般臨床医学	15	池上 和洋	兼任
		病理学概論	15	山野 茂	兼任

	疾病と障害の成立及び回復過程の促進	内科学	15	池上 和洋	兼任
		神経内科学	15	五十嵐 洋介	兼任
		整形外科	15	今井 智仁	兼任
		精神医学	15	五十嵐 洋介	兼任
		臨床心理学	15	渡辺 舞	兼任
		小児科学	15	池上 和洋	兼任
		画像診断学	15	箕輪 和行	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論	15	中嶋 俊雄	兼任
		理学療法概論Ⅰ	15	伊藤 昇平	専任
	専門	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅱ	15	伊藤 昇平
臨床運動学			30	西田 万里	専任
理学療法管理学		理学療法管理学	15	山内 智恵	専任
理学療法評価学		理学療法評価学	15	山内 智恵	専任
		理学療法評価学演習Ⅰ	30	山内 智恵	専任
		理学療法評価学演習Ⅱ	30	山内 智恵	専任
理学療法治療学		運動療法学	15	本間 伸晴	専任
		運動療法学演習	30	本間 伸晴	専任
		日常生活活動学	15	本間 伸晴	専任
		日常生活活動学演習	30	本間 伸晴	専任
		義肢装具学	15	鈴木 由紀子	専任
		義肢装具学演習	15	鈴木 由紀子	専任
		物理療法学	15	鈴木 由紀子	専任
	物理療法学演習	30	鈴木 由紀子	専任	
	筋骨格系理学療法学	15	本間 伸晴	専任	
	筋骨格系理学療法学演習	15	本間 伸晴	専任	
	中枢神経障害系理学療法学	15	伊藤 昇平	専任	
	中枢神経障害系理学療法学演習	15	伊藤 昇平	専任	

理学療法治療学	内部障害系理学療法学	15	本間 伸晴	専任
	内部障害系理学療法学演習	15	本間 伸晴	専任
	発達障害系理学療法学	15	西田 万里	専任
	神経筋障害系理学療法学	15	本間 伸晴	専任
	理学療法技術論	15	西田 万里	専任
	理学療法技術論演習	30	西田 万里	専任
	理学療法研究法演習Ⅰ	15	本間 伸晴	専任
	理学療法研究法演習Ⅱ	15	山内 智恵	専任
	医療面接演習	30	山内 智恵	専任
	臨床理学療法学Ⅰ	30	西田 万里	専任
	臨床理学療法学Ⅱ	30	西田 万里	専任
	臨床理学療法学Ⅲ	30	西田 万里	専任
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	伊藤 昇平
地域理学療法学演習		15	伊藤 昇平	専任
臨床実習	見学実習	45	伊藤 昇平	専任
	評価実習	135	山内 智恵	専任
	総合臨床実習Ⅰ	360	西田 万里	専任
	総合臨床実習Ⅱ	360	西田 万里	専任

②作業療法学科昼間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤、人間 と生活社会の理解	心理学	15	渡辺 舞	兼任
		物理学	15	小岩 正敏	兼任
		社会福祉学	15	宮越 美佳	兼任
		情報科学	15	菊谷 敬子	兼任

		生物	15	守屋 開	兼任	
		英語	15	堀 琴美	兼任	
		人間関係論	15	中村 舞	兼任	
専門基礎	人体の構造機能及び心身の発達	解剖学	15	中嶋 俊雄	兼任	
		解剖学演習	30	中嶋 俊雄	兼任	
		人体機能演習 I	15	谷 紅	専任	
		人体機能演習 II	15	谷 紅	専任	
		生理学	15	福島 和昭	兼任	
		生理学演習	30	中嶋 俊雄	兼任	
		人間発達学	15	楨 洋一	兼任	
		運動学	15	谷口 賢一	専任	
		運動学演習	14	谷口 賢一	専任	
			4	高橋 真紀	専任	
			4	福岡 幹彦	専任	
			8	白田 典正	専任	
	疾病と障害の成立及び回復過程の促進	一般臨床医学	15	池上 和洋	兼任	
		病理学概論	15	山野 茂	兼任	
		内科学	15	池上 和洋	兼任	
		神経内科学	15	池上 和洋	兼任	
		整形外科	15	河村 秀朗	兼任	
		精神医学	15	五十嵐 洋介	兼任	
		臨床心理学	15	堀 琴美	兼任	
		小児科学	15	池上 和洋	兼任	
		画像診断学	15	箕輪 和行	兼任	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学概論 I	15	中嶋 俊雄	兼任	
		リハビリテーション医学概論 II	12	白田 典正	専任	
			2	福岡 幹彦	専任	
			1	谷口 賢一	専任	
	専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	高橋 真紀	専任
				4	白田 典正	専任

	作業療法基礎 技能演習	4	谷 紅	専任	
		2	高橋 真紀	専任	
		2	福岡 幹彦	専任	
		3	谷口 賢一	専任	
	基礎作業療法 学	15	高橋 真紀	専任	
	基礎作業療法 学演習	30	高橋 真紀	専任	
作業療法管理学	作業療法 管理学	15	谷口 賢一	専任	
作業療法評価学	基礎作業療法 評価学	15	白田 典正	専任	
	基礎作業療法 評価学演習 I	30	白田 典正	専任	
	基礎作業療法 評価学演習 I	15	白田 典正	専任	
	疾患別 作業療法 評価学	7	福岡 幹彦	専任	
		4	白田 典正	専任	
		4	谷口 賢一	専任	
	疾患別 作業療法 評価学演習 I	7	福岡 幹彦	専任	
		4	白田 典正	専任	
		4	谷口 賢一	専任	
	疾患別 作業療法 評価学演習 II	18	福岡 幹彦	専任	
		8	白田 典正	専任	
		4	谷 紅	専任	
	作業療法治療学	日常生活活動 学	6	福岡 幹彦	専任
			5	白田 典正	専任
4			高橋 真紀	専任	
日常生活活動 学演習		8	福岡 幹彦	専任	
		8	白田 典正	専任	
		6	高橋 真紀	専任	
		8	谷口 賢一	専任	
義肢装具学		15	谷 紅	専任	
義肢装具学 演習		15	谷 紅	専任	
身体機能作業 療法治療学		6	福岡 幹彦	専任	
		5	白田 典正	専任	

		4	谷口 賢一	専任
	身体機能作業療法治療学演習Ⅰ	6	福岡 幹彦	専任
		5	白田 典正	専任
		4	谷口 賢一	専任
	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ	18	福岡 幹彦	専任
		12	白田 典正	専任
		5	谷口 賢一	専任
		6	谷 紅	専任
	精神障害作業療法治療学	15	谷口 賢一	専任
	精神障害作業療法治療学演習	30	谷口 賢一	専任
	発達障害作業療法治療学	8	福岡 幹彦	専任
	発達障害作業療法治療学演習	30	福岡 幹彦	専任
	老年期障害作業療法治療学	9	高橋 真紀	専任
		6	谷口 賢一	専任
	老年期障害作業療法治療学演習	20	高橋 真紀	専任
		10	谷口 賢一	専任
	作業療法研究	8	白田 典正	専任
	作業療法研究演習	15	白田 典正	専任
	臨床作業療法学	30	福岡 幹彦	専任
地域作業療法学	地域作業療法学	15	谷口 賢一	専任
	地域作業療法学演習Ⅰ	30	高橋 真紀	専任
	地域作業療法学演習Ⅱ	15	谷口 賢一	専任
臨床実習	見学実習	45	谷口 賢一	専任
	地域体験実習	45	高橋 真紀	専任
	評価実習	135	高橋 真紀	専任
	総合臨床実習Ⅰ	360	福岡 幹彦	専任
	総合臨床実習Ⅱ	360	福岡 幹彦	専任

③理学療法学科夜間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内 容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・ 兼任)	
専門基礎	疾病と障害の成立及び 回復過程の促進	内科学	2	土井 静樹	兼任	
			2	前田 由紀子	兼任	
			2	池上 和洋	兼任	
			4	大瀧 敏裕	兼任	
			1	牧野	兼任	
		神経内科	11	武井 麻子	兼任	
			2	本間 早苗	兼任	
		整形外科学	15	佐藤 貴博	兼任	
		精神医学	15	五十嵐 洋介	兼任	
		小児科学	15	池上 和洋	兼任	
		画像診断学	15	箕輪 和行	兼任	
		基礎理学療法学演習	30	竹内 龍也	専任	
		基礎理学療法学	臨床運動学	30	熊谷 大嗣	専任
			臨床運動学演習	30	佐々木 康大	専任
専門	理学療法管理学	理学療法管理学	15	熊谷 大嗣	専任	
	理学療法評価学	理学療法評価学	15	星 亮太郎	専任	
		理学療法評価学演習Ⅰ	30	吉田 亮輔	専任	
		理学療法評価学演習Ⅱ	30	竹内 龍也	専任	
		理学療法評価学演習Ⅲ	5	吉田 亮輔	専任	
			2	竹内 龍也	専任	
			14	熊谷 大嗣	専任	
			5	佐々木 康大	専任	
	理学療法治療学	運動療法学	15	星 亮太郎	専任	
		運動療法学演習	15	星 亮太郎	専任	

	4	佐々木 康大	専任
	4	吉田 亮輔	専任
	3	竹内 龍也	専任
	4	熊谷 大嗣	専任
日常生活活動学	15	竹内 龍也	専任
日常生活活動学演習	30	竹内 龍也	専任
義肢装具学	15	熊谷 大嗣	専任
義肢装具学演習	15	熊谷 大嗣	専任
物理療法学	15	吉田 亮輔	専任
物理療法学演習	15	吉田 亮輔	専任
筋骨格系理学療法学	15	吉田 亮輔	専任
筋骨格系理学療法学演習	15	吉田 亮輔	専任
中枢神経障害系理学療法学	15	佐々木 康大	専任
中枢神経障害系理学療法学演習	15	佐々木 康大	専任
内部障害系理学療法学	15	竹内 龍也	専任
内部障害系理学療法学演習	15	竹内 龍也	専任
発達障害系理学療法学	8	星 亮太郎	専任
神経筋障害系理学療法学	15	吉田 亮輔	専任
理学療法技術論	4	佐々木 康大	専任
	3	吉田 亮輔	専任
	5	竹内 龍也	専任
	3	熊谷 大嗣	専任
理学療法技術論演習	15	熊谷 大嗣	専任
	15	佐々木 康大	専任
病態理学療法学演習	15	熊谷 大嗣	専任
理学療法研究法演習	15	星 亮太郎	専任

	地域理学療法学	地域理学療法学	15	星 亮太郎	専任
		地域理学療法学演習	15	佐々木 康大	専任
	臨床実習	評価実習	—	吉田 亮輔	専任
		総合臨床実習Ⅰ	—	熊谷 大嗣	専任
		総合臨床実習Ⅱ	—	熊谷 大嗣	専任

④作業療法学科夜間部

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・兼 任)	
専門基礎	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	医療支援論Ⅰ	8	高尾人史	専任	
		医療支援論Ⅱ	4	田中孝博	専任	
			4	木谷優矢	専任	
専門	基礎作業療法学演習	基礎作業療法 学演習	30	高尾人史	専任	
	作業療法評価学	疾患別作業療 法評価学演習	15	木谷優矢	専任	
	作業療法治療学	日常生活活動学 演習	日常生活活動学 演習	15	田中孝博	専任
		義肢装具学	義肢装具学	15	長南行浩	専任
		身体機能作業療 法学Ⅰ演習	身体機能作業療 法学Ⅰ演習	15	相馬祐紀	専任
		身体機能作業療 法学Ⅱ演習	身体機能作業療 法学Ⅱ演習	15	長南行浩	専任
		身体機能作業療 法学Ⅲ演習	身体機能作業療 法学Ⅲ演習	8	相馬祐紀	専任
		精神機能作業療 法学演習	精神機能作業療 法学演習	15	高尾人史	専任
		発達機能作業療 法学	発達機能作業療 法学	15	木谷優矢	専任
		発達機能作業療 法学演習	発達機能作業療 法学演習	8	木谷優矢	専任
		老年期作業療法 学演習	老年期作業療法 学演習	8	田中孝博	専任
		作業療法治療技 術論Ⅰ	作業療法治療技 術論Ⅰ	8	長南行浩	専任
	作業療法治療技 術論Ⅱ	作業療法治療技 術論Ⅱ	4	長南行浩	専任	

	4	相馬祐紀	専任
臨床作業療法学 II (統合臨床)	3	高尾人史	専任
	6	田中孝博	専任
	4	木谷優矢	専任
	6	長南行浩	専任
	11	相馬祐紀	専任
臨床作業療法学 III (総合演習)	13	高尾人史	専任
	22	田中孝博	専任
	16	木谷優矢	専任
	13	長南行浩	専任
	16	相馬祐紀	専任
作業療法特論 I	2	田中孝博	専任
	4	長南行浩	専任
	2	相馬祐紀	専任
作業療法特論 II	2	高尾人史	専任
	4	田中孝博	専任
	4	木谷優矢	専任
	3	長南行浩	専任
	2	相馬祐紀	専任
作業療法特論 III	3	田中孝博	専任
	4	木谷優矢	専任
	4	長南行浩	専任
	4	相馬祐紀	専任
作業療法研究法 演習	6	高尾人史	専任
	17	田中孝博	専任
	15	木谷優矢	専任

			16	長南行浩	専任
			26	相馬祐紀	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学 演習	14	田中孝博	専任
			1	長南行浩	専任
		地域作業療法学 特論	6	長南行浩	専任
			2	相馬祐紀	専任
			3	高尾人史	専任
			4	田中孝博	専任
	臨床実習	地域体験実習	—	長南行浩	専任
		総合臨床実習Ⅰ	—	相馬祐紀	専任
		総合臨床実習Ⅱ	—	長南行浩	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

①理学療法学科昼間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療及び福祉施設で勤務するの理学療法士の仕事を見学	1年後期	理学療法概論Ⅱ	1年後期
理学療法評価の実践	2年前期	理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学習Ⅰ・Ⅱ	
利用者さまとのコミュニケーションの実践	2年後期	医療面接演習	2年後期
臨床推論①（症例検討）	2年後期	臨床理学療法学演習Ⅰ	2年後期
臨床推論②（治療計画と実践）	3年前期	臨床理学療法学演習Ⅱ	3年前期

④作業療法学科昼間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療機関・福祉施設での作業療法場面の見学	1年後期	作業療法管理学、基礎作業療法学	1年後期
通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション場面の見学	2年前期	地域作業療法学	2年前期
症例の評価・プログラム立案	2年後期	基礎作業療法評価学	2年前期 2年後期
		基礎作業療法評価学演習Ⅰ	
		基礎作業療法評価学演習Ⅱ	
		疾患別作業療法評価学	
		疾患別作業療法評価学演習Ⅰ 疾患別作業療法評価学演習Ⅱ 他	

作業療法の実践場面の体験	3年前期	日常生活活動学 日常生活活動学演習 義肢装具学 義肢装具学演習 身体機能作業療法治療学 身体機能作業療法治療学演習Ⅰ	2年前期 2年後期
作業療法の実践場面の体験	3年後期	身体機能作業療法治療学演習Ⅱ 精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 老年期障害作業療法治療学 他	2年前期 2年後期

④理学療法学科夜間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
評価実習 対象者への評価の体験	3年後期	理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学演習Ⅰ	2年通年
		理学療法評価学演習Ⅱ	2年通年
		理学療法評価学演習Ⅲ	3年後期
総合臨床実習Ⅰ	4年前期	臨床理学療法学演習Ⅰ	4年前期
総合臨床実習Ⅱ	4年後期	臨床理学療法学演習Ⅱ	4年前期

④作業療法学科夜間部

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
【地域体験実習】 訪問リハまたは通所リハの見学	3年前期	地域作業療法学	2年後期
		地域作業療法学演習	3年前期
		地域作業療法学特論	3年前期
【総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ】 医療提供施設での評価・治療の体験	3年後期	身体機能作業療法学Ⅰ	2年前期
		高次脳機能作業療法学	2年前期
		老年期作業療法学	2年後期
		身体機能作業療法学Ⅱ	2年後期
		精神機能作業療法学	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		発達機能作業療法学	3年前期
		身体機能作業療法学Ⅰ演習	3年前期
		身体機能作業療法学Ⅱ演習	3年前期
精神機能作業療法学演習	3年前期		

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	校長 佐藤正輝
組織の開催頻度	1年に一度
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 委員による授業参観の企画
	・ 教育改善の研修会の開催企画
	・ 教員の資質評価の実施
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://sdc.tsuzuki.ac.jp/ ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス検討委員会
	委員構成等	校長、事務長、各学科責任者、第3者委員 他
	改善の仕組みの実際	シラバスの現状把握と第3者委員による助言により改善を目的とする

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>※自己評価 1－2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員の人数が適正ではない ⇒ 適正人数配置へ改善予定 <p>※自己評価 3－3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成所ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない <p>⇒ 専属の施設を有しておらず、今後の課題である</p> <p>※自己評価 3－5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である <p>⇒ 今後、ハラスメント防止及び発生時の体制を整備予定</p> <p>※自己評価 4－2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。 <p>⇒ R5年度より検討委員会を設置し、改善に向けた実際の運営により今後さらに機能させる予定</p>
